

山行報告

■東北 ^{はやちね}早池峰・森吉山・八幡平

- 日 程：6月13日(土)～16日(火)
- 参加者：L 高島 SL 尾内 福原 村上(敬)
- 行動記録：



- (14日)：小田越登山口 7:35 発～五合目(9:15 着)9:25 発～早池峰山(10:15 着)11:03 発～五合目(11:52 着)12:00 発～小田越登山口(13:35 着)
- (15日)：ゴンドラ山麓駅 8:45 発ーゴンドラ山頂駅(9:05 着)～石森(9:35 着)～避難小屋(9:50 着)9:55 発～稚児平(10:25 着)～森吉山山頂(10:35 着)10:40 発～山人平への雪渓前で撤退(10:50 着)～森吉山山頂 10:55 着～稚児平(11:00 着)～避難小屋(11:15 着)～石森(11:30 着)～ゴンドラ山頂駅(11:50 着)11:55 発ーゴンドラ山麓駅(12:15 着)
- (16日)：八幡平レストハウス駐車場 9:43 発～鏡沼ドラゴンアイ(10:00 着)10:05 発～八幡平山頂(10:18 着)10:25 発～ガマ沼分岐(10:35 着)～見返峠(11:30 着)～八幡平レストハウス駐車場(11:40 着)

◆初めての東北の山 早池峰山(岩手県：標高 1,917m)

福原

前日に、いわて花巻空港に到着し、これも楽しみにしていた宮沢賢治記念館を見学しその隣にある山猫軒（宮沢賢治の有名な童話に登場する西洋料理店の名前）で昼食をとりました。宮沢賢治は短命でしたが、多彩な活動と深い信念を持った方だと改めて知りました。



翌日は雲一つない真っ青な空でした。登山口から樹林帯を約 30 分歩くと大きな石が現れ急に開けた場所に出ました。早池峰山は岩山（蛇紋岩）で滑りやすいことでも有名であり浮石にも注意しながら登りました。登って行くにつれ遠くの景色が見渡せ気持ち良かったです。8 合目付近になると大きな岩壁に長さ約 10m の金属製のハシゴが取り付けられてあり



とても怖かったのですが下を見ずゆっくりと登りました。登り終え少し行くとなだらかな道になりお花畑がある筈でしたが昨日頂上では雪が降りお花畑は真っ白でした。山頂に着くと今日は山開きの日で安全祈願祭があり早池峰神楽の権現舞が奉納されたたくさんの登山者でした。遠くには岩手山、秋田駒ヶ岳、焼石岳が見えました。南には太平洋が望めるようですがそれは分かりませんでした。

早池峰山は花の百名山にも選定され 200 種類の高山植物が生育しています。早池峰山の花といえばハヤチネウスユキソウ（エーデ

ルワイス) だそうです。険しい岩場に少し咲いていました。他にも色々咲いていましたが、今はミヤマオダマキ(紫色の花)が最盛期であちらこちらに咲いていました。良い季節で印象に残る山旅となりました。

◆花の森吉山

村上(敬)

6月15日曇り空、昼からはあいにくの雨予報。8時半にホテルフッシュを出発する。ゴンドラの山麓駅 8時45分始発に乗車。標高差 630mをゴンドラは 20分で山頂駅に到着です。団体さんの前を行こうと、何はともあれスタート。歩き始めてすぐにシラネアオイがお出迎え、優しい薄紫色の美しい花です。赤紫の色鮮やかなハクサンチドリも存在感抜群。マイズルソウやオオバキスマレ、ニッコウキスゲも美しい花を咲かせています。石森を過ぎミズバショウの先では雪渓を渡り、オオカメノキの可愛い白い花も咲いている。ミツバオウレンの小さな白い花も可愛い。次々とお花に導かれ登山道を登って行くと阿仁避難小屋に到着。今回の山旅で避難小屋泊の別グループと出会う。皆さんお元気です。情報交換をして登頂開始。稚児平のチングルマの群生地の中にはイワカガミも優しいピンクの花を咲かせている。Nさんに場所を聞いていたので沢山のチングルマの中に咲く八重のチングルマを見ることも出来た。10時35分森吉山山頂(1,454m)に立つ。早池峰山や岩手山も見える。雲は湧いているが青空も見える。山人平に向けて下ったところに急斜面の雪渓が現れる。総意で撤退する決定。黒い雨雲も遠くに見える。山頂に引き返して白い小さなヒナザクラの花が揺れる中、ひたすらに下山。石森で雨具を着用する。20分程でゴンドラ山頂駅に11時50分到着した。森吉山は花の百名山、いつか訪れたいと願っていた天空の花園でした。雨の中ゴンドラで山麓駅に到着。ゆっくりと昼食をして、昨日思いもかけず宿で頂いた北秋田市の夏季おもてなし宿泊支援事業のクーポン券を皆で使い切った。一人4,000円は大きい。雨が降ったりやんだりの中、一路、鶴の湯へ向かいましたが、田沢湖で大雨警報の雨に合いしばし停車。さらに「アルパこまくさ」に寄り道して鶴の湯に到着しました。合流した別グループは既にゆかた姿です。いくつかの湯に浸り、夕食はとても楽しい時間になりました。



◆八幡平のドラゴンアイと高山植物

高島

東北山行最終日は、八幡平のドラゴンアイを見ることを楽しみにしていました。昨日の雷雨がうそのように、この日は朝から晴天に恵まれました。登山口付近では、前日に森吉山で出会った花々が早速迎えてくれました。今回は花の百名山を巡る山行でもあり、雪解け後に咲く高山植物の名前を覚えようと気合いを入れて臨みました。さすがに、三日連続で何度も見ると名前が頭に入ります。

薄紫の大きな花びらが印象的なシラネアオイ、鶴が舞う姿を思わせるマイズルソウ、雪解け後にいち早く咲くショウジョウバカマ。池塘にはミズバショウとショウジョウバカマの群生が広がっていました。また、ミツバオウレン、キヌガサソウ、オオバキスマレ、ハクサンチド

リ、ヒナザクラ、チングルマ、ミヤマキンボウゲなど多くの花々を見ることが出来ました。

中でも印象に残ったのは、エンレイソウです。三枚の葉の上に茶色い一輪の花が咲いているように見えますが、実はその茶色い部分は花卉ではなく萼とのこと。葉も三枚、萼も三枚と覚えることが出来ました。

登山道はよく整備され歩きやすく、一部に残雪もありましたが、ツボ足で問題なく通過出来ました。注目のドラゴンアイは私にとって初めての景色です。私達が訪れた16日は、鮮やかなスカイブルーの美しい目を見ることが出来ました。18日に訪れた方のお話では、終盤の姿だったそうで、まさにギリギリのタイミングで見ることができたようです。



八幡平展望台からは岩手山がよく見えました。八幡沼の向こうにそびえる岩手山の姿はとても印象的でした。。現在は火山活動の影響で入山規制がありますが、7月から一部登山道が再開される予定とのこと。次回の東北山行では、最新情報を確認したうえで是非訪れてみたいと思いました。

当初はガマ沼分岐から見返峠へ戻る短縮コースを予定していましたが、時間に余裕があった為、八幡沼を一周し、避難小屋の稜雲荘にも立ち寄りしました。雪解け後の湿原を花見湯山隊の皆さんと合同で歩き、青空のもとで高山植物を楽しみながらトレッキングできたことは、今回の山行の大きな思い出となりました。

ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

■東北 花見湯山の旅(最終回)森吉山・八幡平

●日 程：6月14日(日)～16日(火)

●参加者：L 佐々木 SL 上田 大谷 中村

●行動記録：

(14日)：田沢湖駅(11:59着)昼食12:50発—阿仁ゴンドラ山麓駅(14:30着)14:45発—山頂駅(15:00着)15:10発—石森(15:45着)15:50発—阿仁避難小屋(16:15着)

(15日)：避難小屋6:35発—森吉山山頂(7:20着)7:30発—山人平手前雪渓途中で引返森吉山山頂(8:00着)8:10発—阿仁避難小屋(9:00着)9:55発—ゴンドラ山頂駅(10:40着)11:00発—山麓駅(11:15着)12:05発—秋扇湖(13:45着)14:10発—鶴の湯(14:45着)

(16日)：鶴の湯7:45発—八幡平レストハウス(9:40着)9:45発—鏡沼(10:00)～八幡平山頂(10:18着)10:25発—八幡沼周回～レストハウス(11:40着)11:45発—蒸ノ湯(11:55着)13:25発—秋田空港(16:30着)18:15発—伊丹空港(19:55着)

◆花いっぱい森吉山と八幡平を歩く

上田

●6月14日 ゴンドラにゆられて阿仁避難小屋へ

“のぞみ”で東京へ、“こまち”で広い広い関東平野をぬけて田沢湖駅へ、ここからはレンタカーで秋田県北秋田市阿仁の阿仁ゴンドラ山麓駅に14時半ころに着いた。阿仁ゴンドラは

600m登るのだがアップダウンがあって所要時間は約20分、のりごたえがある。今は緑の森を割って登るが、秋は錦秋の森の中を、冬にはスノーモンスターの中を進む、その頃にも乗ってみたいと思うゴンドラだった。

山麓駅で今夕と明日の水を補充したので、ザックは近頃背負ったことのない重さになるが、森吉山は花の山、歩き始めるとさっそくイワカガミや薄紫のシラネアオイが出迎えてくれたので辛さも半減、大きなケルンの立つ石森まで40分、ここからは、今夜の宿・阿仁避難小屋や森吉山の山頂も見える。あまり傾斜のない残雪を何度か超えて16時過ぎに阿仁避難小屋に着いた。夕食は、リーダーの佐々木さんが、水をできるだけ少なくと工夫した、アルファ米とフリーズドライの親子丼、みそ汁もあり、コーヒーもあり、避難小屋での食事としては上等。

阿仁避難小屋は定員が20人、同宿は南アルプスへよく行くという山慣れた長野の青年が一人だった。

●6月15日 森吉山に登り鶴の湯へ

6時半避難小屋出発、登山道脇にはマイズルソウやゴゼンタチバナなどが咲いている。ちょっと登って、だらだらと下ったところが稚児平、このあたりから山頂まで花畑が続く。チングルマ、イワカガミ、ヒナザクラなどが多く、イチヤクソウやイワイチョウなども見え、ニッコウキスゲにも出会った。7時20分森吉山山頂に着く。森吉山は一ノ腰、石森、ヒバクラ岳などの総称で1454mの主峰・向岳に森吉山の標柱が立っている。

私たちは向岳から山人平あたりまで行く予定だったが、急傾斜の大きな雪田に出くわし、アイゼンを持ってこなかったこともあり、森吉山山頂に引き返した。

八重のチングルマ：中村さんは出発の時から、森吉山に八重のチングルマが咲いていて、それを探したいように云っていた。私は「夢のようなことを云う」と思っていた。広い花畑に無数に咲いているチングルマの中から八重の一輪を探せるものではないと。



ところが彼女は那一輪を、稚児平から少し下った登山道傍に探しあてたのだ。

彼女は、八重のチングルマがあるというだけでなく、その場所の情報も得ていたのだろうか。おかげで私もその珍しいチングルマの写真を撮ることができた。

避難小屋から下山しようとしていた私たちは、登ってきた高島さんをリーダーにした早池峰・森吉・八幡平パーティ4人と出会った。

この4人は森吉山に向かい、私たちはゴンドラ駅に下山した。

ゴンドラに乗っている間に雷雨になり、山麓駅に着いた時には外には出られないほどの雨になった。ちょうど昼頃なので、食事をして雨のやむのを待った、この後雷雨はなんども強くなったりやんだりした。

秋扇湖の水没林：阿仁ゴンドラ駅から、今夜の宿・乳頭温泉郷の「鶴の湯」に行く途中で、水没林を見物した。これは上流の鎧畑ダム湖から農業用水を放流するこの時期に毎年見られるものだが、発電所の大規模工事のため、今年見逃せば「令和13年までご覧いただけません」というので話題になっている。玉川温泉の強酸性の水が流れ込むため川の水がエメラルドグリーンに見え、そこに緑の木が立ち並び、空の色が映り込んだりするので幻想的な光景を目にすることができる。



雨が小降りになった午後3時頃に乳頭温泉郷「鶴の湯」に着いた。どうも今回の山行が計画されたのは、取ることが大変難しいこの温泉が取れたことが発端のようだ。私は、そのようなことを知らずに行ったのだが、見れば見るほど歴史と重厚さを感じる温泉だった。

案内板を見ると千年の歴史があり、平安時代の大將軍坂上田村麻呂が薬効を認めたこと、秋田佐竹の殿様がはるばる湯治に来たことなどが書かれている。だから門柱の一方は「本陣 鶴の湯」になっていて、茅葺の重厚な建物は警護の侍が泊ったところだという。温泉に入り夕食のご馳走をいただいて今宵はよく眠れた。

●6月16日 ドラゴンアイと百名山八幡平

今日は早池峰～八幡平パーティと行動を共にする。鶴の湯を出発して9時半ころに八幡平レストハウスに着いた。石川啄木が「ふるさとの山」とよんだ名峰・岩手山が大きく見える。たくさんの人が来ている、どうやらドラゴンアイを見るのが目当てのようだ。レストハウスから鏡沼のドラゴンアイまでは30分もかからない、たしかにドラゴンアイになっている。昨日の水没林は「水がふえて木が沈んだだけ」、ドラゴンアイは「地形と日照の違いで雪の解け方に差があるだけ」と云ってしまえば身もふたもない、自然が作った造形美を素直に愛でることにしよう。

八幡「平」であるから大汗かいて登ったり下ったりするところはない、天気も良く、雪解後の広い湿原に咲くミズバショウなどを見ながらゆっくりと歩いた、もう十日もすれば一面緑の高原にかわるだろう。

ドラゴンアイを見て八幡平山頂へ、八幡平で一番大きな八幡沼を回って見返峠からレストハウスに戻った。

広大な八幡平のごく一部を、1時間ほどだけ歩いて八幡平山頂に立ったのだから、深田久弥さんには申し訳ないような登り方だが、私は百名山登頂を一座増やした。

この後「蒸けの湯」へ行く、ここもその昔八幡太郎義家が入ったという由緒ある温泉、入浴と食事をとって秋田空港へ、帰りは飛行機で帰る。

超難関の「鶴の湯」を取ってくれた高島さん、計画してくれたリーダー佐々木さん、3日間達者な運転をしてくれた中村さん、そして同行のみなさん、ありがとう。



■プチ表銀座縦走

●日程：7月2日(木)～4日(土)

●参加者：L高島 SL尾内 上田 喜田

●行動記録：

(3日)：燕岳登山口(4:20着)4:30発～第一ベンチ(5:10着)5:20発～第二ベンチ(5:50着)5:57発～第三ベンチ(6:30着)6:40発～富士見ベンチ(7:30着)7:40発～合戦小屋(8:25着)8:50発～合戦沢の頭(9:20着)9:30発～燕山荘(10:30着)11:10発～大下りノ頭(12:40着)～喜作レリーフ(14:45着)14:50発～大天荘(15:25着)18:50発～大天井岳(19:05着)19:15発～大天荘(19:20着)

(4日)：大天荘4:00発～喜作レリーフ(4:25着)4:30発～大下りノ頭(6:25着)6:30発～燕山荘(7:55着)8:20発～燕岳(8:45着)8:50発～燕山荘(9:12着)9:20発～合戦

沢の頭(9:50 着)9:55 発～合戦小屋(10:10 着)～富士見ベンチ(10:35 着)10:40 発
～第三ベンチ(11:00 着)11:10 発～第二ベンチ(11:35 着)11:40 発～第一ベンチ
(12:00 着)12:05 発～燕岳登山口(12:40 着)12:50 発～有明荘(13:10 着)

◆燕岳から大天井岳花と展望の縦走路を行く

上田

太平洋岸に停滞する梅雨前線のために7月初めの天気は絶望的で中止もやむを得ないと思ったが、直前になってすこしの好転のきざしが見えての出発になった。松本に向かう車窓からは、梅雨前線から遠ざかるためか少し青空が見えるようにもなった。大糸線穂高駅に13時半頃に着く、バスの時間待ちの間にすぐ近くにある穂高神社に参拝する。穂高神社は上高地明神池の傍に奥宮が、奥穂高岳山頂に峰社がある「日本アルプス総鎮守」、ここでお願いすれば明日からの好天がかなえられるかと丁寧にお参りする。バスに1時間近く揺られて燕岳登山口手前の有明荘に16時前に着いて宿泊する。



7月3日、午前4時、雨具をつけての出発になる、車道を20分ほどで中房登山口、ここからアルプス3大急登と言われる合戦尾根の登りになる。のっけからの急登で、私には一瞬、どうして登ろうかと逡巡するような大きな段差もある。

合戦尾根には歩行時間40分ほどの間隔でベンチがある、登山者はこのベンチで休憩を取りながら登る。第2ベンチで雨上がり雨具を取る、すこし歩きやすくなった、第3ベンチ、富士見ベンチとたどり合戦小屋に着く、たくさんの登山者が休憩しスイカを食べていた。夏の合戦小屋の名物はスイカ、私たちもスイカを食べる、スイカは私の好物でもあるがこのスイカはいつ食べてもおいしい。

登山口から合戦小屋まで約900m登ってきた、燕山荘までは後350mほど、傾斜もすこし緩やかになる、樹間から燕岳から大天井岳への稜線が見え、空もあかるくなってきた。シナノキンバイの花畑をすぎると一頑張り燕山荘、有明荘出発から約7時間、設定時間より少し遅れたが燕山荘前庭にでると、これまでの疲れを吹き飛ばすように、一気にアルプスの大展望が広がる。

中房から燕山荘までは結構一日の工程だが、今回私たちはここに留まることはできない、大天井岳までの5時間ほどの工程が残っている。11時燕山荘出発、大天井岳までの道はコマクサの花畑が続き、剣・立山から槍・穂高までのアルプスの峰々を見ながらの実に楽しい縦走路である。それに今回このコースで初めてイワウメを見ることができ私にはうれしいことだった。これまでの山行は7月20日頃の梅雨明け以後の山行であったので、花期の早いイワウメを見ることができなかったのだ。

楽しい縦走路ではあっても、蛙岩の通過や為右衛門吊岩の通過など難所はある、それに長時間の行動で次第に疲れがたまる。為右衛門吊岩をすぎてから切通岩までずいぶん長く感じた。鎖と梯子でくだり、ようやく小林喜作のレリーフのある切通岩に着いた。

切通岩から大天井岳山頂直下の大天荘まではコースタイム40分、一度短い休みでも入れれば行けるはずだが、なんと休んだことか、荷物を分担して持ってもらったのでザックは日帰り山行ほどになっているのだが足が出ない、最後はザックを持ってもらって16時ちょっと前に大天荘に着いた。出発から12時間、みんなに助けてもらってようやく大天荘にたどり着くことができた。

7月4日、午前4時、大天荘出発、今日は昨日歩いてきた道を逆にたどり中房に下山し帰宅する、昨日登ってくるとき疲れて「明日これを引き返すことができるだろうか」と不安を感じながら歩いたが、そんなことは言っていられない、昨夜はよく眠ったし、朝食も完食したのだから「いける」と決めて歩を進める。4時半ころ日の出を見る、天気は大丈夫だ。為右衛門吊岩もあまり苦にならず通過する、今日もアルプスの展望をほしいままにしての縦走である、進むごとに展望が広がり、立山から薬師、黒部五郎に続く峰々、裏銀座コースの峰々が槍から穂高に連なる。疲れはあるが「小躍り」したいような気持ちでの縦走である。

蛙岩も過ぎて燕岳が近づいてきた、花と展望に励まされてか、不安など感じることなく、出発から4時間、8時に燕山荘に着いた。

燕山荘から燕岳往復は1時間ほど、メンバーは燕岳に向かったが、私は合戦尾根の下りの足を温存するために待機、リーダーなどより一足早く8時40分燕山荘を出発する。途中槍ヶ岳を見る、この山行での最後の槍ヶ岳だが、私には文字通り最後の槍ヶ岳となると思って見送る。合戦小屋に9時35分着、これも最後と思いスイカを食べる。

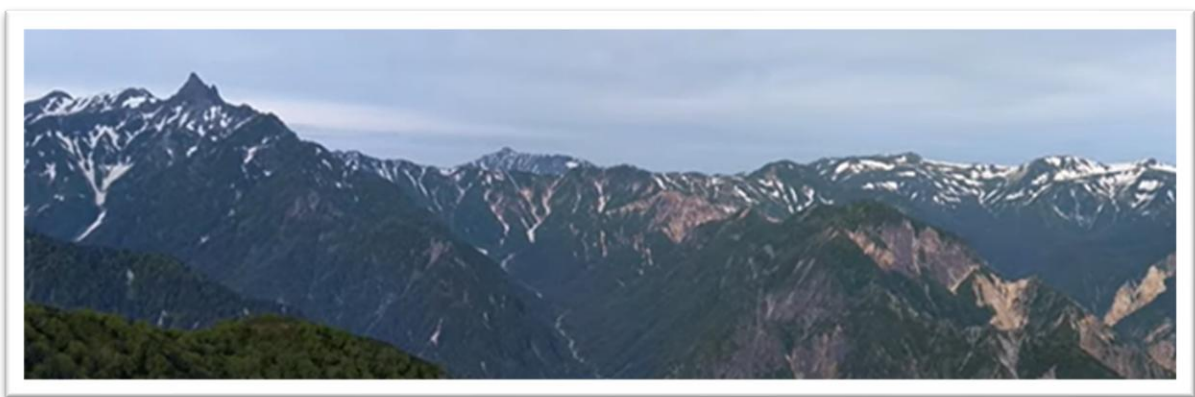
昨夜、燕山荘に泊った170人の高校生が下山している、一般登山者に迷惑にならないよう何班にも分かれて集中しないよう連絡を取りながら下山し、登山者には道を開けてくれる。

あえぎながら登った合戦尾根だが、登りに比べれば下りは楽でベンチごとの短い休みで13時頃中房に下山することができた。大天荘から9時間で下山できたのだから私としてはよく頑張ったと思う。

私はこれまでに合戦尾根を四度登った、これまであまり厳しいとは思わなかった。中房・大天井岳往復はきつい計画とは思ったがなんとかなると思って参加した。それに「このコースの花と展望をもう一度」の思いが強かった。後で調べてみると、前に合戦尾根を登ったのは2014年の夏山集中山行で表銀座をやった時だった。12年の歳月の経過を忘れていた。厳しい山行だったが、それぞれの色を輝かせていた花々と白馬から穂高までの展望は「北アルプスは最後」思っで行った私を十分に満足させる山行であった。

この山行ではメンバーに大変迷惑をかけた、3日は私が先頭を歩いた、それは私のペースで歩かせる配慮だったが切通岩までだった。任務は写真と感想文だったが、写真は3日夜に「任務放棄」、4日は2番目を歩くことだけに専念し、無事に下山することができた。同行のみなさん、本当にありがとうございました。

最後にみなさまに、私が小躍りする気持ちで眺めたアルプスの展望をご覧ください。





■夏山①コース 旭岳2290.8m～黒岳1984m

●日 程：7月6日(月)～9日(木)

●参 加 者：L 中村 SL 木村 笹木 佐野 村上(敬)

●行動記録：

(6日)：神戸空港8:35発～千歳空港(10:30着)一日の出公園
(14:00着)～大雪山山荘(17:30着)

(7日)：大雪山山荘6:30発～姿見駅7:05発～姿見池(7:28着)7:40発～2065m地点
(9:30着)～金庫岩(10:27着)～旭岳山頂(10:45着)11:30発～
間宮岳分岐(13:05着)13:20発～中岳山頂(14:20着)～北鎮岳分岐(14:42着)
～黒岳石室(16:15着)

(8日)：黒岳石室4:35発～黒岳山頂(5:05着)5:25発～黒岳石室(5:55着)



黒岳石室 7:05 発～中岳分岐(9:40 着)～中岳温泉(10:45 着)11:05 発～
裾合分岐(11:45 着)～姿見駅(14:00 着)一月形温泉ゆりかご 17:30 着
(9 日): 月形温泉ゆりかご 9:20 発一月形樺戸博物館(9:30 着)11:30 発ー北海道大学
(13:30 着) 14:40 発ー千歳空港 18:40 発ー神戸空港(20:30 着)

◆カムイミントラ(神々の遊ぶ庭)を体感

笹木

(6 日) 神戸から飛行機で新千歳へ。その後レンタカーで今夜の宿、大雪山山荘に向かう。お天気は良く空気は爽やかで半袖では寒いくらいだった。のどかな農園風景が広がり、沿道にはメロン、スイカ、サクランボの看板が立ち並ぶ。誘惑に負けて立ち寄り、富良野メロンを 5 等分してもらってかぶりつく。やっぱ北海道に来たらメロンだー、申し分なく美味しい！続いて、日の出公園へ寄った。展望台から見る富良野平野の眺めは最高！ラベンダーに癒され、雄大で美しい景色を堪能する。17 時前に大雪山山荘に着いた。じゃんけんで二部屋に分かれて泊る。



温泉も良く、地元の野菜をとりどりに使った料理も美味しく、宿のあちこちに心遣いが感じられ心地よく過ごせた。

(7 日) 出発の朝、玄関先に、夜は会えなかったおかみさんが出て来られ、黒岳まで縦走するという私達にびっくりしつつ、あれこれアドバイスを下さった。車も「ここに置いときなさい」と、とても気さくなおかみさんでした。

ロープウェイで上がり、姿見駅(標高 1600m)から登山スタート。山頂までは約 600m、高御位の 2 倍、六甲より低いよ、なんて言いながら気楽に登っていく。すぐに足元には高山植物が満開。ピンクのエゾノツガザクラが可愛い。チングルマも可憐で清々しい。20 分で姿見池に着いた。池の周りには雪が残り、水と緑とのコントラストが美しい。青空の下に旭岳がクッキリと聳え、その裾野にいくつもの噴煙が昇っていた。新しい花を見ては写真を撮り、たびたび休憩しながら火山礫の道をゆっくり登っていく。標高が上がるにつれて、眼下には素晴らしく雄大な景色が広がり、右手には斑に雪をかぶったトムラウシから十勝への連峰が見える。「ああー 絶景！！」自分はこの景色を見るためにここへ来たと、両手を大きく広げて深呼吸してまた登る。溶岩と火山礫のこんな開放的な所にはクマは出ないだろうと言っていたら、先



の登山者が、ついさっき一頭道を横切って雪渓のほうへ下りて行ったと言う。途端、緊張が走り、どうか出くわしませんようにと鈴を鳴らす。遠くにやっと金庫岩が見えてきた。が、頂上まではまだまだ。2065mの標識の前で5人が座り込んで休んでいると、登ってきた外人が手振りで「写真撮りましょうか」と言ってくれた。その女性にスマホを渡すと連写でシャシャシャと撮って、笑顔を残し颯爽と歩き出す。(感謝と羨望?の念で見送るリーダーがHPの写真コーナーで見れます) ほぼ

コースタイムで山頂に着いた。写真を撮り雄大な景色を眺めながら、宿で作ってもらったおにぎりをほおばった。

旭岳からの下り、キャンプ地までは大きな雪渓がある。アイゼンが必要かどうか、リーダーが先にチェックされ、アイゼン無しで行くことに。雪はシャーベット状だが凍ってはいない。踵で踏み込んで、ストックで突きながら一步一步慎重に歩く。全員無事に下りることができホッとした。それから歩いて一時間後、間宮岳分岐まで来てリーダーがひと思案する。お鉢を挟んで右手には北海岳に登っていく長い稜線が見える。左手は間宮岳を経て北鎮岳へ行く稜線が続く。このまま計画書通りに北海岳を経由して行くか、左周りで間宮岳のほうへ進むか、北海岳方面は未知のコース、あの長い稜線を超えて行けるだろうか？結局、歩いたことのある道に進む方が安全と考え、左周りに経路を変更された。間宮岳を経て中岳分岐を通り中岳(2113m)に着く。御鉢平の端っこが見えてきた。コマクサとイワブクロの花が小さくも可憐に咲いている。旭岳に続く第二の高峰、北鎮岳が目の前にそびえている。ここまで来たら登りたい！という気持ちを抑えて、北鎮岳分岐を通りすぎる。お鉢の向こう側に北海岳を超えて黒岳石室に続く道が一目で見渡せる。こちら側はこれから下って雲ノ平を抜けていく道が見える。方向を確認して下りて行くと、急峻で深い残雪の斜面に出た。さらに一步一步慎重に下りて行く。下から見上げると大きな雪山のようだった。二つの雪渓をクリアしてやっと平坦な雲の平に入り、御鉢平展望台まで来た。そこからは全長2Kの巨大なお鉢の全容が見渡せた。鉢の底は平らに広がり、吹き出る有毒ガスが土を変色させ、土色が白っぽく、緑がかったクリーム色も混ざって、死んだ細胞の中に脳の血管のような川が流れていた。リーダーが地獄のようだと言ったけどなるほど。。ハイマツの中を歩いていると、陰に動くものがありギョッとして見るとキタキツネが二匹いた。すぐに隠れたかと思うとおそろおそろ顔を出してこちらを伺っている。シマリスもチョロチョロしているようだ。小動物は文句なく可愛く癒される。



北鎮岳と凌雲岳の裾野に広がる雲の平は広大で、ハイマツやナナカマドなどの青い低木と残雪とお花畑が広がり、まさに雲上の楽園、神々の遊ぶ庭だ。周りには誰もいなくて私達だけがそこに居て、自由にこの自然を満喫している幸せ。思わず、カムイミンタラーと叫んだ。

黒岳石室では5人貸し切り状態で別館に案内してくれた。電気がなくトイレにも遠いが、室内で煮炊きもOKということで遠慮なく過ごせる。明るいうちに外のテーブルで湯を沸かし、アルファ米やカップ麺等々で夕食。6時半には部屋に入ったが電波も通じず、シュラフとマットを用意して早々に就寝。トイレはバイオトイレ(1回500円)と携帯用のブースが各二か所あった。バイオトイレ使用後は自転車を20回こいで便槽を動かさなければならない。夜間は寒くて眠れず3回もトイレに行って自転車をこいだ。おまけに二回目にはヘッドランプを床に落として点かなくなり、暗闇の中を手探りで部屋まで戻った。殆ど眠れず夜が明けた。雨が降ってなかったのが幸い。

◆黒岳登頂から中岳分岐を経て中岳温泉をまわり姿見へ

村上(敬)

(8日)曇り、早朝4時35分、黒岳石室をスタート。途中の雪渓を渡る時に、若者がすでにスノーボードで滑っていた。朝の黒岳登頂はさすがにしくくて見渡す山々に見とれる。昨年登頂した白雲岳や赤岳も見えて話が弾む。ナキウサギは声はすれども姿は見えずコマクサが少し咲いていた。6時前には黒岳石室に戻り朝食を取り準備を整えました。



7 時過ぎには黒岳石室から再スタートする。風に揺れる赤紫のエゾコザクラやナナカマドも清々しい白い花を咲かせています。キバナシャクナゲも今がさかり。登山道に頭がオレンジ色のギンザンマシコがつがい朝の散歩です。御鉢平展望台まではお花を楽しみながら歩けましたが、北鎮岳肩の分岐への登りは見上げる雪渓の壁です。一休みして登り始めました。前を登る L はひたすら蹴り込みを入れて登りやすくしてくれています。一步一步確実に登り雪渓を終えた時はホッとしました。

中岳分岐までは広大な御鉢平を見ながら稜線歩きです。大声を出してクマに注意しながら分岐から約 1 時間、250m 位下ると自然の温泉、中岳温泉に着きました。足湯につかり先客と情報交換です。ひと時の安らぎ時間です。足がリフレッシュして気持ち良く裾合分岐に向かい沢の渡渉をしました。雪渓に次ぐ雪渓で、お昼休憩も雪を見ながらでした。黒岳石室から姿見平までに雪渓、雪原は 20 か所。ほぼ雪の上を歩きました。でも姿見平辺りからは一面のチングルマ、エゾイソツツジ、エゾノツガザクラ等々お花畑です。ロープウェイの建物が見えた辺りからホッとしてお花に癒されて昨日、今日と歩き通せたことに安堵しました。お花を見ながら和気あいあいと 14 時に姿見ロープウェイに到着。

14 時 21 分ロープウェイを降りる。大雪山荘のご厚意で車を置いていたので山荘まで戻り車で今日の宿、月形温泉に向けて出発する。約 145 km。ドライバーに感謝です。

◆月形町観光と北海道大学見学

中村

(9 日) 宿舎の温泉で出会った地元の方のお勧めで、月形樺戸博物館に行くことになった。資料には、「北海道の集治監の一つ」と書いてあった。今でいう刑務所の事。網走刑務所があまりにも有名すぎて、こんなところにもあったんだ…と思った。樺戸監獄の囚人は、犯罪者より主に政治犯。明治維新で武士の特権をはく奪され、不満を抱いた士族が収容されていたらしい。北海道開拓に従事するために囚人が集められたという。主に道路の建設だが、労苦のはて、脱走を試みた者には、約 4 kg の足枷がはめられる。足枷を引きずる為、すり減った出入り口の石段。ゴールデンカムイのモデルになった独房。作業の展示の等々…教科書には載っていない、明治新政府の樹立の陰に、犠牲になった人たちがいる事実、に、困惑してしまった。今年も気分よく北海道をレンタカーで走っているが、これからは感謝の気持ちをもって、走らせてもらいます。



北海道大学内では、ポプラ並木を目指した。途中、森を抜け、牧場を横切りやっと到着。心地よい風が吹き抜け気持ちよかった。学内が広い為、自転車移動の学生が目立った。さすが北大ならではの風景と思った。

最終日の計画は、樽前山の登山だったが、雨予報が出ていたのでとりやめ、道内の観光にかえた。道内は広く見渡せば山はあちらこちらにある。「来年はどの山に登ろうか・・・」など余裕ある会話も弾み、山行が終了となった。メンバーの皆様ありがとうございました。

■六甲ロックガーデン(山歩き教室) 実技ー5

●日 程：6月21日(日)

●参加者：A班 L野村(富) SL安田 伊藤 竹林 三宅 福永 和田
B班 L徳本 SL藤原 浅田 中岡 野村(詩) 柳本

●行動記録：阪急芦屋川駅 9:00 発～高座の滝(9:46 着)9:57 発～風吹岩(10:59 着)11:10 発～雨ヶ峠(12:16 着)12:52 発～東おたふく山(13:17 着)13:24 発～土桶割峠(13:30 着)13:38 発～一軒茶屋(14:55 着)～最高峰(15:17 着)～石の宝殿(15:45 着)～蛇谷北山(16:08 着)～土桶割峠(16:40 着)～東おたふく山バス停(17:07 着)

◆自然の風の気持ち良さをたっぷり味わった六甲初登山

三宅

前日の激しい雨に明日は登山できるかな？と不安だったけど…当日の朝はなんと雨が上がり日も差してきた!!昨日のあの激しい雨がうそのように天候に恵まれた六甲初登山!!

900mの六甲山…こんなに高い山登れるかなという不安と、初めての六甲山…ワクワクの期待でスタートした。

登山口までが長かった!!登山口に着くまでに疲れてしまった。登山口に入ると…涼しい風が吹いてきて気持ち良くなって思わず笑顔がこぼれた。自然の風がなんと気持ち良かったかぁー。自然の風の心地よさを体と心で味わった!!

いよいよ登山。いきなりの狭い登り坂、そしてさらにロッククライミング…めちゃくちゃしんどくて、自分の体力のなさががっかり、まだ登り始めたばかりなのに…この先大丈夫かな？と不安になった。体力には少し自信があったのに…そしてやっと着いた休憩場所。ここでもやっぱり自然の吹く風が何よりも気持ち良くて一番嬉しくて、笑顔になれた。

座学でいろいろ学んだが、実際に自分の足で登って体験し、学んだことは強く深く心に残ることを実感した。六甲山の美しい自然の景色を眺め味わう余裕はなかった。ただ…山頂近くのすすきの草原を歩いている時に、ポツンと咲いていたうす紫色のアザミの花が目に入ってきて「思わずきれーやなぁー」と。今でも目を閉じると、きれいなアザミの花が見える。

今回の登山では、六甲山に吹く自然の風の気持ち良さをじっくりたっぷり味わうことができた。いつの日か…リーダーさん達のように腰に手を当て、大地を一步一步踏みしめしっかり歩きながら、自然の美しさや吹く風の気持ち良さを笑顔で味わいたいと思った。

リーダーさん、スタッフの皆さん、色々大変お世話になりました。ありがとうございました。おかげさまで無事下山、そして帰宅することができました。



◆初めての六甲山登山

和田

六甲山とか近郊の色々な山を登ってみたいけど道も知らないし一人では心細いし、と思ってた矢先、神戸新聞に山登りの基礎や実践講座を高御位山遊会が開いていると云う記事を見つけ、これだっ！と思い申し込みました。

そして今回は待ちに待った六甲山。前日の激しい雨と夜中の雷雨でどうなるかと心配していたけど、目が覚めると快晴の天気！！行きの電車の中、期待と不安のなかで芦屋川駅を降りると沢山の登山者を見て一気にテンションUP！山遊会の方と無事合流出来てホッと一安心。

ストレッチをした時点で蒸し暑く上着を脱いでスタート。登山道に入ると昨日の雨と適度な風が相まって気持ちよく「高座の滝～ロックガーデン～風吹岩」までの岩道を何やかやと喋りながら登り切り一休憩。風吹岩からの眺めは良く神戸の街並みが綺麗に望めました。個人的には鹿島神社から登る百閒岩のほうが遥かにきつく感じられました（一人じゃないからかも）。12 時頃？に雨ヶ峠で昼食休憩、食べ過ぎたら後がしんどいかな？と思ったけどお腹が空いていたので完食。美味しかったあ～！！



東おたふく山では笹の平原が開放感あり気持ちよく歩け、また大阪の街も一望でき良い眺めでした。土桶割峠で事情あり下山される方々と別れ、リーダーとスタッフの方2名、新人4名の7名で六甲山頂を目指してテンション上げて？再スタート！

途中、増水した沢を渡るときは誰か落ちるんじゃないかと思っていたけど全員見事クリア、頑張ってみんなで山頂に登頂！！

帰りは石の宝殿神社からバス停を目指して下山。これがまた凄い道で一人ではちょっと怖すぎて無理って感じの道やったけどリーダーを信じて皆で頑張って何とか（笑）

17:07 のバスが停留所に停まった瞬間に全員が停留所に駆け込むという（行程8時間で1秒の誤差もなし）リーダーの計画的な神業で六甲山登山が無事終了しました！！

初めての六甲山登山で楽しい一日を過ごすことができました。リーダー、スタッフの方々、お世話になり有難うございました。



■初めての山歩き教室終了山行 氷ノ山

●日 程：6月27日(土)～28日(日)

●参 加 者：L 須増 SL 春本 浅田 徳本 中岡 福永 柳本 和田

●行動記録：

(27日)：奈良尾民宿やねや 10:00 発—鉢伏高原駐車場(ストレッチ) (10:07 着) 10:30 発
～高丸山(11:04 着) 11:14 発～鉢伏山(12:05 着～避難小屋で昼食) 12:35 発～鉢
伏高原駐車場(13:50 着) 14:00 発～やねや(14:07 着)

(28日)：奈良尾民宿やねや 6:00 発～東尾根キャンプ場 (ストレッチ) ～東尾根登山口
(6:20 着) 6:30 発～東尾根避難小屋(7:10 着) 7:20 発～神大ヒュッテ(9:00 着)
9:10 発～氷ノ山 (9:53 着) 10:15 発～神大ヒュッテ (10:42 着) 10:47 発～
東尾根避難小屋 (12:07 着) 12:14 発～東尾根登山口 (12:45 着) 13:10 発～
やねや (13:30 着)

◆1日目 鉢伏山

浅田

台風で、どうなることか心配でしたが、大した雨にも降られず霧雨で、景色は残念ながら楽しむことが出来ませんでした。アザミ、アジサイがきれいで、ウグイスやいろいろな鳥の声に癒されました。空気がおいしく草原はフカフカで足が喜んでました。ついて行くのに必死でしたが、ゆっくりゆっくり、いろいろなアドバイスを受けながら登りきることが出来、ちょっと自信がつかしました。リーダー、皆様ありがとうございました。

楽しみにしていた夕食は鉢伏鍋で、猪豚、鴨肉、とりのつくね、たっぷりの野菜、めん、メの雑炊、何ととっても出汁が大変おいしかったです。満腹と疲れで爆睡でした。



◆2日目 氷ノ山

福永

二日目、いよいよ本番の氷ノ山登山に向けて、昨夜は早く就寝したので、四時に起床、五時には民宿の女将さんに準備して頂いたお弁当を朝食として完食し、気分良く出発する。六時半、奈良尾キャンプ場の東尾根登山口(標高788m)から登り始める。早速急登だが春本リーダーの指導のもと、小さな歩幅でゆっくり確実に歩みを進め東尾根避難小屋で衣服調整し水分補給。登山口で晴れていた天気も山中に入ると薄霧がかかり、ガスに包まれて、異界の入り口っぽくて、何やら神妙な空気感。あたりの樹木も根元から雪の重みで押さえつけられたようにカーブ

していて冬季の厳しい自然が容易に想像できる。ここから一ノ谷休憩所を経て神大ヒュッテまで1時間40分頑張って歩みを進める。途中、ぬかるんだ谷川の流れを何度も横切りつつ、倒木をまたいだり絡み合った根っこに足をすくわれそうになるだけでなく、頭上に覆いかぶさるような笹の枝などにも注意し、漸く九時に神大ヒュッテに倒れこむように到着、水分と栄養補給の時間が有難い。更に厳しい登りが続き不機嫌になる仲間を励ましつつ、とうとう九時五十分、氷ノ山山頂（標高1510m）に到着し、高御位山遊会の旗を掲げて全員で記念撮影できたのは最高の時間だった。そして十時十分、徳本リーダーを先頭に足取り軽く下山スタート。ところが足が疲れてくると今度は踏ん張りが効かず、なんでもない場所ですら倒れたり、つるつと滑ったり。膝がガクガク笑いそうになるのをこらえつつ十二時四十分、全員無事に登山口まで降りることができ感無量だった。苦しい登りの山道ではすぐ近くで鳴き交わすウグイス等々の美しいさえずりに励まされたり、突然巨大な山ミミズの出現にびっくりしたり、登山口ではアカハライモリに出逢ったり。また、ブナ原生林のみずみずしい緑色の苔の森に癒されたり、かわいいスギゴケの群生地を見つけたりして、苦しくも本当に素敵な山行だった。こんなに美しく豊かな自然に親しみ、次世代に残せるよう、登山道の整備や地元関係者の方々の努力にも感謝したい。

今回、活発な梅雨前線と二つの台風が重なり開催が危ぶまれたが、リーダーさん達の的確な判断のおかげで、兵庫県の最高峰に初めて登頂できとても嬉しい。初めての山歩き教室終了山行を企画し、安全に導いて下さったリーダーさん達に深く感謝し、二日間無事に完走出来た仲間と共に讃えあいたい。

